

委員会視察報告書

委員会名	議会広報広聴常任委員会
視察地	埼玉県戸田市
調査項目	議会モニター制度、市議会見学ツアー、出前講座について
調査目的	戸田市における議会モニター制度及び、議会広報委員会の取り組みを調査研究することにより、市民に開かれた柏崎市議会の推進につなげるため。
日時	1月25日(木) 午前9時25分～11時
場所	戸田市役所6階 議長応接室
調査概要	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田市は都心まで20分の位置にあり、人口が増え続けている。また、平均年齢が42歳と若く、独自の課題として、小学校が足りない問題や、町内会加入の問題などを抱えている。 ・議会では服装の自由化に取り組んでおり、市民に開かれた議事を意識されている。 <p>《議会モニター制度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市域が18平方キロメートルと狭いことと、本会議等の議会傍聴に対し積極的な地域であるために、議会報告会の開催に代わる形で議会モニター制度を導入した。 ・議会モニターにより提出された提言などは議会運営委員会に報告され、その取り扱いを議会運営委員会が協議し、後日各会派からの意見を調整したのち、回答を作成することとしている。 (提出された意見と回答は提出者に通知するとともに、市議会ホームページに掲載する。) ・定員は15人となっているが、これまでの応募状況は2人から6人。令和5年は6人であった。 ・モニターと議員との意見交換会の中で意見交換会の開催回数(現在年2回)や、出席議員の追加(2人から5人に)などがモニターからの意見で改善した。また、議会広報誌の見やすさや、傍聴のルールなどが改善された。 ・課題として、「議会運営」に関する意見をもらうことが目的で

あったが、一般質問の内容や市の施策に関する意見が多くなる傾向にある。その傾向に対する新しい試みとして意見交換会の内容をグループワーク形式に変更し、議会から持ちかけたテーマに対して話し合う形式とした。

《議会広報委員会の取り組み》

●議会を知つ t o c o 市議会見学ツアー

- ・戸田市にある「職員提案制度」の中で議会事務局から提案し、平成27年議会運営委員会です承した後に開始した、すべての人を対象にしたツアー。
- ・主に小学生の社会科見学に対応している。30分程度の行程で、議会の役割、議会の仕組み、市民の意見がどのように反映されるかを伝える。

●とだみらい会議（中学生との意見交換会）

- ・中学生の新学習指導要領に主権者教育が位置付けられたことをきっかけに令和3年からオンラインにて開催。
- ・令和5年は議場での対面形式にて開催している。令和5年11月の第2回開催では3分科会でのグループワーク形式も取り入れ、中学生による発表も行われた。
- ・公募での参加者募集でテーマ設定や参加者集めに苦慮したが、多くの中学生が参加され、活発な意見が出てくる中で、当時試行中であった議員の服装自由化がスケジュールを前倒しにして令和5年12月から本格実施となった。

●公式 Facebook

- ・令和5年竹内議長所信表明時より「議会を身近に感じる取り組み」としてまずはFacebookから始めた。
- ・Facebookは拡散性が低い、若者が使っていないなどの理由から他ツールの活用も検討している。



(説明会場)

視察の様子



(議場)

質疑応答

質問 議会モニター制度で調査事項を改善した件について、モニターの反応は？

回答 委員長：現役世代の応募が少ない。各種団体への推薦依頼は、審議会のような同じ顔ぶれになってしまうため採用していない。

事務局：6月はその他の意見も聞いた。12月はモニターから提案のあったテーマを加えた。

質問 各種団体側からの参加希望はなかったか？

回答 事務局：制度設置当初にかなり議論したが、「顔ぶれが固定化している」、「市長に近い人物が多い」などの違和感があり、団体推薦は採用しなかった。団体側からの参加希望はなかった。今回の応募は3人と少なかったこともあり、改めての議論が必要と感じている。

議長：人数は減っているが、若い女性の応募もあり内訳は進化している。目的に沿った改善を考えていきたい。

事務局：事務局としても課題と感じている。応募票の自己アピール欄が応募の敷居を上げているのではないか。

質問 傍聴者の状況は？

回答 事務局：12月定例会は60～70人、委員会は10人程度。委員会は、請願・陳情が出されると増える傾向にある。

質問 意見交換会のテーマ「議会モニターが増えるためには」に対する意見は？

回答 委員長：特になかった。今年度6人のうち新規メンバーは半分だった。

議長：議会モニターではないが、事務局の提案は「一番身近な市民の意見」と捉え、参考にしたいと考えている。

質問 アンバサダーについて

回答 事務局：私案だが、他議会の取り組みを参考に、従来の発信では届かない人に情報を届ける手法としていいのではないかと感じている。

質問 見学ツアーを職員提案した経緯は？

回答 事務局：庁内職員提案制度の中で、当時出たアイデアかと推測される。最近では三浦委員長に出席してもらう機会があり、議員が対応するメリットも感じている。

議長：見学自体はいいことである。今後は議員も対応していきたい。

委員長：中学生対象のとだみらい会議の前に、高校生との取り組みを実施していた。若い世代への取り組みは今後も継続していきたい。

質問 中学生対象のとだみらい会議について、学校・教育委員会への働きかけは行ったのか？

回答 議長：事務局から教育委員会へ働きかけ、並行してとだみらい会議実行委員（役半数の議員）がチラシを配布した。当初の申込みが少なく、再度教育委員会に協力をお願いして、追加申込みにつながった。

事務局：教員から参加生徒への事前指導が入る懸念もあつ

	<p>てか、当初、教育委員会は学校の介在に積極的ではなかった。</p> <p>質問 学生対象のとだみらい会議の実績をフィードバックすることで、教育委員会の姿勢に変化はあるか？</p> <p>回答 議長：必ずあると感じている。実行委員だけでなく取材担当の議員も会場に来ていたので、多くの議員が会議の様子を見たことは非常に良かった。</p> <p>事務局：全国トップクラスで先進的な取り組みをしている教育委員会であり、自前の主権者教育（プレゼンテーション会議など）にも取り組んでいる。</p> <p>質問 広報委員会の関わり方は？</p> <p>回答 事務局：広報委員会は広聴機能を所管していないが、意見交換会に広報委員長が出席し、委員会で協議の参考としている。とだみらい会議では取材を担当し、広報紙に掲載する。</p> <p>事務局：議会モニターは議会改革特別委員会で設置し、モニターによって出た意見等は議会運営委員会で処理する。また、SNS発信に関しては議長の所信表明を受けて議会運営委員会で決定し、広報委員会で広報している。</p>
<p>委員会所感</p>	<p>【星野幸彦委員長】</p> <p>議会を身近に感じてもらいたいとの現議長の方針により、中学生を対象とした『とだみらい会議』（意見交換会）を開催したり、議員自身の意識改革のために服装の自由化など『みちか』に対する精力的な取り組みが行なわれていた。議会の活動ではないものの議会事務局から発案された『議会を知つ t o c o 市議会見学ツアー』なども行われており、広報という視点から相当な効果があるのではないかと感じる。戸田市の『議会モニター（全員公募）』は、やはり応募が少ない事や市政の事業に対する意見が多かったりと課題はあるものの、モニターとの意見交換などブラッシュアップに努めており徐々に改善されてきたとお聞きした。</p> <p>【三宮直人副委員長】</p> <p>広報委員長の「都心に近く若い町であるだけに、地元への愛着、議会への関心が低いと感じている。長期的な視野で地道な</p>

取り組みが必要」との言葉の印象が強い。議会ツアー、みらい会議、議会モニター制度など議会を知ってもらう、議会に参加してもらうための垣根を低くする取り組みがあの手この手でされていたと思う。今回の上越、北本、戸田各市の視察は広聴を中心としたが、各市議会において同じような課題を持ち試行錯誤して「これだ!」というやり方、仕組みが見えたわけではない。戸田市広報委員長の「長期的な視野で地道な取り組みが必要」との言葉から広報広聴の機能を考えてみたい。

【山崎智仁委員】

埼玉県戸田市は、都心までの通勤が20分と好立地のため人口が増加している地域である。また、議会の傍聴数も多く感じられる。

議会モニター制度の課題であるモニターの申し込みが少ない点や議会運営についての意見が少なくなる点について、申し込み方法の改善や議会からのテーマ提案、グループワーク形式の採用などの工夫をすることで改善されている点が勉強になった。また、印象に残ったのが「とだみらい会議（中学生との意見交換会）」の運営である。会議の紹介動画を見て、将来を担う中学生との意見交換を通じて地域への愛着を醸成するのに役立つと感じた。

【三嶋崇史委員】

埼玉県戸田市は、南東部に位置し都心までの利便性が良い。人口14万人の市平均年齢は42歳でとても若い世代が多く暮らし、豊かな水と緑があふれる生活環境、子育て支援に力を入れている市である。

議会モニター制度の課題点は申し込みが少なく、議会への意見も少ない所は他市でも同様である。議会自体の印象は、毎月の研修会、服装の自由化、SNSの活用など議会改革が進められている。特にとだみらい会議（中学生との意見交換会）には興味を持った。事業紹介動画の内容、テーマなどの中学生の発言は戸田市愛が溢れていてとても感動した。世代別意見交換会の重要性を感じた。

【近藤由香里委員】

戸田市議会では平成23年4月から議会モニター制度を導入し、意見・提言を議会運営に反映させてきた歴史がある。定員

に比して応募者が少ないことや、モニターの意見は一般質問や市の施策に関するものが多いことを課題とし、ブラッシュアップを図っていた。ただし、これまでの間にモニターの意見・提言を受け、改善・改革を進めてきたことから、議会運営に対する市民ニーズは、一定程度満たされているのではないかと思う。

また、議会の新たな試みである議員の服装自由化と議会SNSをテーマに、中学生との意見交換会（とだみらい会議）を開催したことは、若い世代の議会への関心を高めると同時に、広聴機能を高める取り組みとして参考にしたい。

なお、これらの取り組みは議長の意思と議会事務局の尽力が大きく、「議会を知つ t o c o 市議会見学ツアー」は、議会事務局が発案・対応責任者であることから事務局体制の厚さを感じた。

視察で学び得たことを整理し、柏崎市議会における広報広聴活動をより良いものにしていきたい。

【西川弘美委員】

議会広報委員会の取り組みについては、「開かれた議会」を目指して、ネーミングや開催方法の工夫など柔軟な考え方に溢れており、議会モニター制度導入にもつながっている。議会モニターの意見・提言を踏まえて改善した事項もあり、また、課題を捉えて意見交換会をグループワーク形式にして手法を見直すなど工夫を続けている。議会のハードルを低くする趣向が大変効果的であると感じた。

【五位野和夫委員】

戸田市では市域が18㎢と狭く、議会傍聴を希望する市民は比較的容易に傍聴できる環境があり、一般質問の傍聴も多いとのことである。しかし、その反面、議会への関心が低い状況での議会報告会は現在実施していない。その代わりに全員公募による「議会モニター制度」に取り組んでおり、市民から議会への提案を提出してもらっている。

「議会モニター制度」は市民から議会に対する意見の聴取・広聴の方法の一つとして考えたい。

【相澤宗一委員】

モニター制度の導入の経緯として、前段に議会報告会の実施について検討がなされていたが、議会への関心度合いの低迷や

コンパクトな市域性からこの制度を導入されたとのこと。

市民への情報提供等については議会改革として進めてきており、新しい意見（事務局意見）の取入れなども引き続き進めていくとのことである。

同席の議会改革特別委員長からは議会の在り方についても触れられ「改革でなく変革、抜本的に変えていくことも必要」と議会改革における広報広聴の重要性をご教授いただいた。令和時代に沿う、柏崎地域ならではのスタイルを模索したい。

【阿部基委員】

戸田市においては、議会を知つ t o c o 市議会見学ツアーを実施し、年齢制限なしで、議場や委員会室を見学でき、議会の役割や仕組みを学ぶことができる。

また、中学生と未来について意見交換会を実施し、議員の服装から意識改革を行い、議会を身近に感じてもらう取り組みを行っていた。

この視察で開かれた議会を目指すための様々な手法を学ぶことができた。

当市にとって、どのような手法であれば市民から開かれた議会と感じていただけるのか、研究が必要であると痛感した。